



第119号

2023年2月10日

◆ 発行 ◆

名古屋労災職業病研究会

名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4 階

TEL&FAX : 052-837-7420

e-mail : roushokuken@be.to

<http://nagoya-rosai.com/>



間所照雄さんは、自動車のブレーキパッドや工場配管に使用されていたパッキンの交換を行ったことでアスベストにばく露したことから胸膜中皮腫を発症し治療を受けています。(2022年11月19日福井県越前町内 関連記事 P3~P7)

119号目次

✎ 年頭のご挨拶	P 2
✎ 機械いじりが好きで整備会社に入ったんです 悪性胸膜中皮腫で療養中の間所照雄さん	P 3~P 7
✎ 全国一斉アスベスト被害ホットライン2022	P 7
✎ 審査請求において通院日のみ休業補償支給とした 島田労働基準監督署の原処分が一部取り消し	P 8
✎ 在宅医療実習を終えて～私が興味のある医学小断を添えて～	P 9
✎ 名古屋ふれあいユニオンのこれから	P10
✎ 出稼ぎ検診に取り組んで	P11
✎ 事務局からのお知らせ	P12

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。

去年の7月から名古屋市医師会理事を卒業して、愛知県医師会の理事となりました。名古屋市医師会理事の時は、ワクチン感染症担当ということで県議員の高木さんと協力しながら名古屋市民がワクチンを積極的に打てるように、また感染対策等にも尽力してきました。忙しさには慣れていたと思っていましたが、愛知県医師会は、その3倍くらい忙しく、名古屋市医師会で会議があると、名古屋市16区に対して1回会議を行えば済みましたが、愛知県医師会で会議を1回行うには、愛知県は広いので1回の会議を3カ所で行わなければならない、これまでの3倍の会議回数となり、その度に普段、着られないスーツ、ネクタイを着用して理事会に参加しております。大変です（笑）。

また息子が高校受験で、勉強をまったくしておらず……。

まァ、なんとかなるかと〜、いつかスイッチが入ってほしいなと思っています。長女が今年、成人式を迎えて振袖を着るので、当日の朝起きるよう娘に言われて、お酒が残った状態で写真を撮りました（笑）。そんな小ネタを集めて、今後も『もくれん』で皆様に近況報告ができたと思います。



祝
成人



5年程前までは、労職研運営委員会で会計がマイナスだと言われて成田さんもいつもへこんでいましたが、良いのか悪いのかここ毎年、安定した収支できております。去年の12月にアスベストホットラインを行い、相談件数もまたかなりきています。忙しい愛知県医師会の理事の上に労職研の代表として奮闘しながら、団体の運営がこのまま安定して継続できるよう、まだまだ頑張っていきたいと思います。皆様の忌憚のないご意見を頂いて、また今後に生かしたいと思いますので本年も宜しくお願い致します。

代表 森 亮太



悪性胸膜中皮腫で療養中の間所照雄さん

悪性胸膜中皮腫で療養をしている福井県越前町在住の間所照雄さん（75歳）は、通院している福井赤十字病院で治療を受ける日の朝は、血液検査の順番を早く取るため、午前6時に自宅を出発します。病院までは妻の千鶴さんの運転する自家用車で向かいますが、冬の雪道が恐ろしく、病気になってから四輪駆動車に買い換えました。

間所さんは、福井市内の病院に7時少し前に到着すると、まだ閉まっている正面玄関ではなく、救急のための時間外入口から病院の中に入ります。そして、朝に5台ある受付機の前で順番待ちをする患者さん達の為に、病院がそれぞれの受付機の前に並べた簡易イスに腰掛け、週刊誌を読みながら受付機が起動するのを待ちます。間所さんは、だいたい先頭か2番目の簡易イスに腰掛け時間まで順番待ちをします。間所さんが福井日赤に通院し始めた頃は、病院の準備したイスは無く、自身で簡易イスを持ち込んでいました。

7時15分に起動する受付機で受付を済ませると、間所さんは、いつも10番目以内に入っており、早く血液検査のための採血を受けることができます。福井日赤で免疫チェックポイント阻害剤オプジーボの投与を受けるには、採血を済ませた後、1時間程血液検査の結果が出るのを待ち、さらに主治医の診察を受けなければなりません。予約は取ってあるものの、最初の採血が他の抗がん剤治療を受ける患者達で大変混みあうため、早く受付を済ませなければ、待ち時間が非常に長くなってしまうことから、間所さんは、治療を受ける日は早朝に自宅を出発することにしています。早朝から順番待ちをし、採血を済ませ、医師よりオプジーボ治療を受けることが出来るか肝臓の数値などの血液検査結果チェックを受けた後、20名程が一度に治療を受けることが出来る外来化学療法室のベッドの上での点滴注射によりオプジーボの投与を受けるとお昼になっています。かつては1時間以上投与時間がかかっていましたが、最近は30分程で終了します。CTやMRIを撮らなければならない時は、もっと時間がかかるということでした。

間所さんは、1947年1月25日に9人兄妹の8番目の子供として福井県鯖江市に生まれました。1962年の春、鯖江市内の中央中学校を卒業後、隣町の武生市内で有名だった自動車、バイクの整備や販売を行うスピード商会に就職し、住み込みで働き始めました。スピード商会に入社したのは、出身中学校に求人票が来ていたのと、自動車やバイクが流行り始めた頃で、間所さん自身もともと機械いじりが好きで、バイクが欲しく「自動車いいな、バイクいいな、買われもせんし（買えないことだし）、自動車の整備に行こうか」と考えたからでした。

間所さんの入社当時、スピード商会では、東洋工業（現マツダ）の軽三輪トラック（オート三輪）の修理が多く行われていました。東洋工業初の軽三輪トラックは、1959年に市販が開始され、姉妹車の設計やマイナーチェンジを繰り返しながら1971年まで生産されました。

スピード商会に住み込みで働いていた男性社員は15人程で間所さんの同期は2人でした。八畳一間に5人で寝ていましたが、押し入れが無かったので布団はそれぞれの頭のところに畳んで置き、代わりばんこで部屋の掃除をしました。入社したばかりの間所さんは、朝、他の人より30分早く起き、バイクを店先の玄関に並べ、店内の掃除をしてから社長の奥さんの作ってくれた朝食をとりました。朝食は、先輩から順番に食べていきました。若く食欲もあった間所さんは、ご飯をもう一杯食べたいといつも思いましたが、遠慮してしまい言うこ

とが出来ませんでした。朝昼晩と奥さんの賄いでした。就業時間は朝8時から夕方5時15分まで。お客さんから修理依頼が入った場合は、夜でも先輩社員と駆け付けました。入社したての間所さんの仕事は、修理の済んだお客さんの車の洗車や洗い油とブラシでエンジンなどの部品を洗う仕事でした。自動車やバイクのパンクの修理も任されましたが、現在のようにタイヤを交換するのではなく、タイヤ内部のチューブを出し、チューブにあいた穴にパッチを貼り修理をしていました。四輪車のパンクは、ジャッキで車体を上げ、タイヤを外して修理が出来ましたが、二輪車のパンク修理は、タイヤを容易に外せなかったのが、タイヤのトレッドをめくり、チューブを出して修理しなければならず厄介でした。スピード商会での初任給は8000円程で、給料日は先輩がラーメン屋に連れて行ってくれて奢ってくれたりしました。間所さんにとってスピード商会での住み込み仕事は、話の合う年齢の近い者同士の共同生活で楽しいものでした。

お客さんの車を取りに行く際に必要であったことから、間所さんは16歳の時に自動車運転免許証を取得しました。学科は先輩から本を借りて仕事が終わった後に勉強し、運転免許試験場での学科試験に合格した後は、本免許運転試験を受けましたが、運転免許試験場まで免許を持っていた事務員さんにスピード商会の軽三輪トラックを運転してもらい、車体を持ち込んで試験を受けました。本免許試験ではS字カーブ走行や坂道発進などの検定が行われたことが今でも記憶に残っています。本免許運転試験の前に、会社の先輩に助手席に乗ってもらい、人のいないところで運転の練習をしました。高価で車は買えませんでした。スピード商会では、下取りに入ってきた車を絶対に事故を起こすなという条件で社員に運転させてくれたことから、休みの日は会社の車で出かけました。スピード商会の定休日は日曜日で、休みの日にお客さんからの修理依頼を受ける社員は全員が交代で務めました。間所さんはこれまで、大きな事故を起こしたことはありません。

間所さんは、先輩社員から教えてもらいながら、自動車整備を覚えていき、20歳頃に三級自動車ガソリン・エンジン整備士の試験に合格し、22歳頃に二級自動車ガソリン・エンジン整備士の試験に合格しました。そして、23歳頃に住み込み生活が終わり、鯖江市の実家からスピード商会に通勤することになりました。間所さんは、30歳を過ぎた頃、結婚をし、越前町へ婿養子に入り、二人の男の子の子宝に恵まれました。

間所さんは、摩擦で減った自動車のブレーキパッドの交換をよく行いました。ブレーキパッドは、ディスクブレーキを構成する部品の一つですが、当時は、摩耗の低減及び制動効率をあげるために混和材として使用されたアスベストを含有していました。自動車のディスクブレーキは、キャリパーにセットされたブレーキパッドでブレーキロータを押さえることにより、摩擦による減速や停止などの制動を行います。ブレーキパッドの交換では、摩擦により発生し、ブレーキロータの周りに堆積したブレーキパッドの粉じんをエアーガンで吹き飛ばしていたことから、アスベスト粉じんが整備工場内に飛散していました。間所さんら整備工は誰一人、マスクをしていませんでした。間所さんが記憶しているブレーキパッドを交換した車種は、小型トラックではトヨタのトヨタエースやダイナ、スズキキャリー、普通自動車や軽自動車では、トヨタのカローラやスプリンター、コロナ、クラウン、マークII、三菱自動車のミニカ、コルト、GTO、ギャラン、マツダのキャロルやクーペなどでした。間所さんは、中皮腫になってから当時のブレーキパッドにアスベストが含まれていたことを知りました。アスベストを含有するブレーキパッドは1990年代まで生産されていました。

1979年、間所さんは、自動車整備から営業にまわることを会社から命じられました。大きな自動車ディーラーと違い、スピード商会では、車を熟知した整備工が営業社員になっていました。スピード商会は、三菱自動車の代理店でしたが、トヨタやマツダ、スズキなども販売しました。営業社員になり帰宅時間は遅くなり、帰宅が夜中の12時になることもあ

りました。車の商談はどうしてもお客さんの仕事が終わった後の時間になることが多く、1度の商談ではなかなか購入を決められないお客さんの為に何度も商談を重ねなければならない時もありました。営業社員時代の間所さんの販売台数は、月に5、6台キープという状態で、月に6、7台売れば良い方でした。1台販売するごとに4000円の歩合がつけられたので、5台販売した場合は2万円の歩合ということになりましたが、お客さんに持っていくおみやげなどは自腹になってしまい、間所さんは給料がなかなか上がらないことに不安を感じていました。営業社員を3年務めた後、1982年9月、間所さんは転職を決意し、20年半勤務したスピード商会を退職しました。20年半勤務した会社でしたが、間所さん曰く、あっさり辞めたということでした。

間所さんは、1982年12月、公共職業安定所を通じて、鯖江市内の繊維染色工場で使用されている工業機械の設計や製造、修理を行っている会社、パワーユニオンに工場設備の修理、メンテナンスを行う社員として入社しました。機械いじりが好きな間所さんは、この仕事はいいわ、自分に合うわと思いました。以前より給料も上がり、間所さんは、2009年8月に定年退職するまで、26年8か月間、この会社に勤務しました。

パワーユニオンでは、会社の近くにある繊維素材染色工場の専属の修理、メンテナンス要員となり働きました。染色工場内は、染色機や乾燥機など熱を発生する機械が沢山設置されているうえ、触るとやけどをするような配管もあり、常に室温が44℃から45℃程あるとても暑い環境で、工場に入っただけで汗がでました。間所さんは、暑い工場内で朝から夕方まで働きました。工場内に換気扇は取り付けられていましたが、効果はありませんでした。夏場は暑さで体重が減少しました。暑い環境には、パワーユニオンに就職して、3、4年目には慣れて暑さを感じなくなりました。染色工場には、25台の染色機や7台の乾燥機その他、20台の検査機やスカッチャーと呼ばれる液流染色後の繊維のねじれ矯正をしたり、拡布をしたりする機械など、多種多様な機械設備が設置されていました。染色工場の機械設備の修理は、自動車の整備とは勝手が違ったものの、もともと機械いじりが好きな間所さんは、それぞれの機械の働きや構造について半年程で覚えました。

間所さんは、毎朝会社に出勤するとトラックで染色工場に向かいました。24時間稼働している機械設備の修理は、毎日ありました。染色機のポンプには120℃から130℃程の液体が流れており、内部のステンレスが熱膨張し水漏れをおこすことから、ポンプをばらしてシャフト内部のメカという部品やパッキンの交換をする必要がありました。染色機が染色インクで汚れるため、工場の職員がホースで洗いましたが、洗うと機械自体が故障して動かなくなることがありました。その際には、機械を一旦止めて、機械内部にエアーを吹きかけて乾かししたり、部品を取り換えたりする必要がありました。

染色機には、120℃から130℃の液体や高温の蒸気を通っていることから常に圧力がかかっており、故障の際は、パッキンを取り換える必要がありました。また、染色機から工場内や建屋外に伸びた直径約1.5cmの配管や、直径約3cmの配管等から蒸気もれが発生することがあり、パッキンを取り換える作業を行いました。

パッキンは、クリソタイル（白石綿）が含まれている、日本バルカー新城工場で製造された製品であることが、間所さんの中皮腫発症後に行われた、武生労働基準監督署による労災保険適用調査の時に、会社が提出した資料で判明することになります。

間所さんは、パッキンの交換について筆者に詳しく話してくれました。パッキンの交換はまず、配管をつなぐ為に接合部に取り付けてある円形の部品であるフランジ継手のネジを外します。それぞれの配管に取り付けられたフランジ継手の間には、液体や蒸気の漏れを防ぐためにアスベストを含有するパッキンが取り付けられていますが、パッキン交換の際は、ドライバーをパッキンとフランジ継手の間に入れて、この原理で隙間をあけ、取り外しまし

た。ただ、高温でパッキンがフランジ継手に焼き付いていることがほとんどで、大体は、サンドペーパーで擦りパッキンを削り落としたり、幅の広いカンナのような工具で削り取ったりしなければなりません。サンドペーパーでパッキンを擦る際には、粉じんが飛散しましたが、当時の間所さんは、パッキンにアスベストが含まれていることを知りませんでした。間所さんは、パッキンの交換の他、天井の空気を送るダクトの修理や、蒸気や水を通す配管の修理も行いました。



2020年7月14日、呼吸がしづらいと感じた間所さんは、自宅近くの織田病院を受診しました。レントゲン検査の結果、右肺に大量の胸水が溜まっているのが分かりました。9日間入院しましたが、改善せず、肺結核の恐れがあると考えられたことから、7月22日、織田病院が呼んだ救急車で福井赤十字病院に搬送されました。間所さんの奥さんは、手遅れになってからでは遅いので日赤を紹介してくださいと織田病院に頼んでいました。

福井日赤では、間所さんの胸水を抜く胸腔ドレナージとともに、胸腔鏡下胸膜生検が施行されました。診断結果は肉腫型の胸膜中皮腫でした。胸腔ドレナージ後に撮影された間所さんの胸部CT画像には、アスベストばく露を示す所見である胸膜プラークが確認されました。胸膜プラークはアスベストにばく露した人の壁側胸膜に出現する、光沢のある白色ないしうすいクリーム色の凸凹を有する平板状の隆起です。

間所さんは、手術を受けることを希望していましたが、福井日赤の担当医師からは、中皮腫が胸膜に沢山あり手術が出来ないと伝えられました。妻の千鶴さんと2人の息子さんは担当医師との面談で、間所さんが入院してきた時は、死ぬ間際で危なかったと伝えられました。

医師との面談を終え、病室に戻ってきた息子さんは、治らない病気ならば、治療をせずに過ごしていきたいと考えていた間所さんに、「父ちゃん生きとないんか」と聞き、間所さんは、「生きたいわ」と答えたといいます。息子さんから「ちゃんと抗がん剤治療を受けなければ」と言われたことから、あまりに抗がん剤治療が辛い場合は考えるとして、1回抗がん剤を打とうということになりました。間所さんに、この頃の気持ちを聞いたところ、「がん自体が嫌でした。死に目に会いたいですけ」という答えが返ってきました。

間所さんは、8月より11月までアリムタとカルボプラチンを併用する抗がん剤治療を6回受けましたが、奏功せず、病態進行（PD：Progressive Disease）と判断されました。そして、12月より2次治療として免疫チェックポイント阻害剤オプジーボの投与が開始されました。幸いオプジーボは奏功し、CT検査で腫瘍が大きくなっていないことが確認されました。オプジーボが効いていることを医師より聞いた間所さんは安心したといいます。間所さんは、現在も2週間に一回、オプジーボの治療を継続して受けています。CT撮影は3か月に一回、脳に転移がないか確認するMRIも撮影します。今のところオプジーボの重篤な副作用は出ていませんが、便秘と左肩関節が痛くなる症状が出ています。左肩関節の痛みは、カロナールを毎食後2錠ずつ飲んで押さえています。

間所さんの労災は、2021年12月に認定されました。間所さんが福井日赤に最初に入院した際に、病室に回って来た呼吸器センター長の医師から「アスベストだから全部労災でしないといけない」と言われたのと、日赤の医事課からも労働基準監督署に行ってくださいと言われたことから、間所さんと妻の千鶴さんで労災保険の請求に取り組みしました。当初は、労災保険のことも分からず、どこでアスベストにばく露したのか、全く見当が付きませんでした。9か月間、武生労働基準監督署の調査が続きましたが、会社から提出された資料により、繊維染色工場の配管のアスベスト含有パッキンの交換が中皮腫発症の原因と認定さ

れました。労働基準監督署へは、3、4回足を運びました。

昨年、4月17日に福井駅前で筆者らが事務局となり開催した中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会北陸支部の相談会に、間所さんは電話で相談をしてきました。この電話相談の後、関西労働者安全センターの酒井恭輔さんが支援し、建設アスベスト給付金の情報提供サービスを厚生労働省に申請したところ、間所さんの繊維染色工場内の配管のアスベストパッキン取り換え作業が、建設業における配管設備業と同じ、特定石綿ばく露建設業務と認められることが分かり、建設アスベスト給付金の支給対象業種であることが分かりました。

間所さんは、体力はあるということで、時折、妻の千鶴さんとともに庭の木の剪定をしたり、畑を耕運機で耕したりすることもあります。朝か昼にコーヒーを飲みに喫茶店には毎日行っています。

11月19日に越前町の間所さん宅で行われた筆者によるインタビューに、間所さんは妻の千鶴さんとともに臨んでくれました。千鶴さんは、間所さんが筆者の写真撮影に備えて、前日に髪を染めて欲しいと千鶴さんに頼んだことを教えてくれました。

事務局 成田 博厚



全国一斉アスベスト被害ホットライン2022



しない・させない、泣き寝入り・被害隠し

中皮腫の年間死亡者は1635人、補償・救済率は中皮腫で65%、石綿肺がんでは28%で進まず未だに治療、看護に関する患者・家族の不安、悩みが絶えません。中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会（本部：東京都）は、昨年、12月15日から16日にかけて全国一斉アスベスト被害ホットラインを実施しました。このホットラインは、厚生労働省の石綿ばく露作業による労災認定等事業場の公表時期にあわせて毎年行っています。

2日間の名古屋への相談件数は、63件でした。また、2日間の各地の着信ポイントへの相談件数は、大阪120件、東京54件、福岡53件で、全国で290件もの相談が寄せられました。

名古屋に寄せられた相談内容は、中皮腫で亡くなった義理の父の建設アスベスト給付金を請求したが、従事歴が証明できず行き詰ってしまっている、東京で大工として働いていた父親が昨年肺がんを患ったが制度利用が可能か、一人親方で左官として働いてきて、肺がんを発症して療養しているが労災申請できるか、運送会社のドライバーとして、アスベスト製品製造工場に積み込みの為に立ち入ったことがあり中皮腫を発症したがどうしたらよいか、長年解体工事に携わり、医師からはじん肺と言われている等の相談が寄せられました。

相談対応は、事務局メンバーの他、会員で中皮腫患者遺族の藤本さんにもお手伝いいただきました。

労職研代表で患者と家族の会の森亮太医師も、取材にきたNHKのカメラに向かって「アスベストは20年30年経ってから症状が出る。アスベストを使っていた会社に親や自分が勤めていて、息苦しさや咳などの症状があれば、被害を疑って相談してほしい」と相談の呼び掛けを行いました。

いただいた相談については、現在、スタッフが順次対応させていただいております。

昨年1月に建設アスベスト給付金の申請が始まってから、事務局には連日多くの相談が寄せられています。

事務局 成田 博厚

審査請求において通院日のみ休業補償支給とした 島田労働基準監督署の原処分が一部取り消し



静岡ふれあいユニオン組合員のブラジル人女性は、出来上がった新車にラップシートを張る仕事に従事していました。２０２０年１２月２１日、午後３時４０分頃、女性が製造ライン上で作業中、前方の車両がベルトコンベアで空転したため、ライン上に車両が詰まった際に、左膝が車両の間に挟まれました。また、ふき取りをしていた後方の車両にも挟まれないために、右手で車両を押したものの、押し返されてしまい負傷しました。負傷当日の病院の診断は、左膝打撲傷、右手挫傷、右前腕挫傷でした。女性は、同日より休業を開始したことから、労災保険の休業補償給付の支給を受けて生活していました。

その後、右上肢末梢性神経障害性疼痛も発症しながら怪我の療養を続けていましたが、島田労働基準監督署より、２０２１年８月１日以降は、運動器具を使用したりハビリテーションと投薬治療を行っているが、休業の必要性については、主治医より「就労は軽作業なら可能と思われる」と判断されたとされ、これ以降は、病院への受診日についてのみ休業の必要性があるものとされ、以降、１１月まで、病院受診日のみ休業補償が支給されることになりました。女性は、これを不服として、静岡労働局に審査請求しました。

静岡労働者災害補償保険審査官は、２０２２年６月２８日、２０２１年８月１日から同年１０月３１日までの間の、通院日のみの休業補償を支給する旨の一部支給決定処分については、取り消す決定を下しました。理由は、女性が主治医より軽作業が可能の指示を受けたのは、２０２１年１０月２６日であることが病院の診療録及び本人聴取より判断できるというものでした。

審査官は、女性の２０２１年８月分の休業補償給付請求について、島田労働基準監督署が主治医に求めた２０２１年９月２５日付け意見書において、主治医が「就労は軽作業なら可能と思われるが、勤務先に軽作業があるかは知り得ていない。重労働しかないなら今しばらく休業は仕方がない」との所見を述べているが、同年８月分の休業補償給付請求に対する回答ではあるものの、いつから軽作業が可能なのか詳細は記載はされていないとしたうえで、一方診療録には、同年１０月１２日に「会社と本人から労基署に軽作業が無い事を訴えて物療通う」とあり、また同月２６日には「軽作業可 診断書」との記載がありその診断書の記載内容は「上記病名にて加療中であるが、軽作業は可能である」となっているとしました。そして、請求人（女性）は、２０２２年４月２７日の聴取の中で、２０２１年１０月の休業支払い後に主治医に軽作業が可能か否かを尋ね、軽作業が出来る旨の回答を得たと申し立てており、上記診療記録と併せ、請求人（女性）が、医師より軽作業が可能の指示を受けたのは２０２１年１０月２６日であるものと判断するとしました。

女性の審査請求代理人だった、静岡ふれあいユニオンの小澤満夫さんは、「まだ、怪我が治っていなうえ、会社にも仕事がないのに休業補償給付を打ち切ってはダメ。最初、女性と島田労働基準監督署に行ったとき、医師が治ったと言っているから休業補償を打ち切った。仕事を探すのなら、監督署ではなくハローワークに行ってくれと言われたのがとても不満」と筆者に語ってくれました。

事務局 成田 博厚

在宅医療実習を終えて



～私が興味のある医学小断を添えて～

12月19日から23日の5日間、杉浦医院にて在宅医療実習をさせていただきました藤田医科大学医学部5年の亀井です。実習中は、外来見学や訪問診療、さらには院長の森先生が長年続けていらっしゃるホームレスの診療にも同行させていただきました。

訪問診療では、定期的に患者さんの自宅を訪れて診察を重ね、時には患者さんの家族からも普段の自宅での様子などを聞くことで、患者さん一人一人の日常生活動作の低下がどの程度なのかを把握し、家族全体のケアまで行っていました。こうして培った信頼があってこそ、患者さんから看取りまで任せてもらえるのだろーと感じました。

また、ホームレスの診療では、「命に格差はない」「困っている人がいたらすぐに相談に乗る」という考えを体現していらっしゃる森先生の姿に感銘を受けました。これらの学びは、今後自分が医師として生きていく上での糧にしたいと思います。



ここで、ガラリと話は変わりますが、私が将来研究してみたいテーマの一つである腸内細菌叢のお話を少しだけさせてください。私たちの腸には細菌やウイルスなどの微生物がたくさんいて、これらの中で腸内細菌は100兆個以上、重さにすると1キロを超えと言われています。さらに、腸内細菌が抱える遺伝子は、私たちの150倍にもなります。このような腸内細菌の集まりを腸内細菌叢、またはお花畑に例えて腸内フローラと呼ばれています。



腸内細菌叢は、私たちの腸で消化しきれない残りの食べ物を豊富な遺伝子を使って代謝・分解して、普段私たちが消費するエネルギーの一部に変えています。そのため、別名「隠れた臓器」とも呼ばれている腸内細菌叢ですが、近年の研究から、免疫、代謝、脳神経など体中の様々な疾患との関連していることが明らかになってきています。これらの研究報告は、腸内環境の改善が単に腸を整える効果だけでなく、様々な疾病の改善につながる可能性を示唆しています。

私が通っている藤田医科大学では、腸内環境を改善する素材である乳酸菌やビフィズス菌などの「プロバイオティクス」や、オリゴ糖や食物繊維などの「プレバイオティクス」を用いて、医学分野での様々な疾病の改善をサポートすることで、患者さんの生活の質の改善に繋げるべく日夜研究を行っています。将来的には、健康な人の腸内細菌を移植したり、ないしは腸内細菌を治療薬として簡単に病気を治すことが当たり前になる時代がやってくるかもしれません。私は、そんな未来の実現に少しでも力になればと考えています。

藤田医科大学医学部5年 亀井 豪貴



名古屋ふれあいユニオンのこれから



名古屋ふれあいユニオンは 1999 年 1 月に 28 名で結成され、「不安定雇用労働者のよりどころ」をキャッチフレーズにして、職場で声が上げられないパートや派遣労働者の相談を受け、ユニオンに加入した労働者の権利を守り拡大する活動を行ってきました。結成当初は個人の相談を受け雇用問題、労働問題、労災問題等の解決に取り組みましたが、組合員数は 50～80 人程度で推移していました。

2006 年頃から外国人労働者の参加が増え、職場組織もでき、2008 年のリーマンショック後の「派遣切り」など雇用問題への取り組みの中で組合員が急増、また日本人の職場組織も徐々に増えていきました。2015 年には全国のユニオンが集まる全国交流集会を地域のユニオンや労働団体と協力して成功させることで地域とのつながりも深まりました。

そして 2018 年には職場闘争をへて専従になった。在の名古屋駅前に移転して活動の幅を広げるなどした。結成当初から地域の仲間と「コミュニティユニオン東海ネットワーク」を通じて交流を図ってきましたが、この間行政交渉や技能実習生問題などに共同で取り組むなど連携を強化しています。

現在は、新しい担い手の育成や地域・職場での仲間作りを通して、個人の相談にも職場の労働条件の向上にも対応できる組織作りに力を注いでいます。非正規労働者や障がい者、請負労働者、外国人労働者などが多く参加する労働組合なので組合費だけで組合財政をまかなうことは困難であり、新しいスタッフを得ることも簡単ではありません。

しかし、停滞する経済と格差の拡大のなかで、雇用問題・パワハラ・労働条件の切り下げなど職場のトラブルは後を絶ちません。また最近では、AI を利用した労務管理、雇用によらない働かせ方、無権利な外国人雇用などの拡大が危惧され、個人の相談を機に職場全体の問題に取り組むユニオンの役割は大きくなっていると思います。

これからも、それぞれ特色をもって活動していユニオンや、名古屋労災職業病研究会などの労働団体、東海労働弁護団などとともに、愛知県および東海地区で生活を営む人々に資する活動に心がけていきたいと思っています。



名古屋市中村区
花車ビル南館 11 号

名古屋ふれあいユニオン 組合事務所

名古屋ふれあいユニオン 浅野文秀



出稼ぎ検診に取り組んで



昨年、全国労働安全衛生センター連絡会議の議長を務められたこともある神奈川県勤労者医療生協の天明佳臣さんが亡くなりました。天明さんは、秋田県からの出稼ぎ者の健康問題に取り組み、首都圏の医師らに呼びかけて、１９９１年に「首都圏出稼ぎ者健康管理ネットワーク」を結成しました。このネットワークを中心にして（取り組みの詳細は、「出稼と医療」天明佳臣・首都圏出稼ぎ者健康管理ネットワーク編著 一葉社）首都圏の出稼ぎ者の検診や健康相談を取り組みました。私もネットワークに参加して、亀戸ひまわり診療所の看護師、東京労働安全衛生センターのスタッフとともに秋田県からの出稼ぎ者の検診に取り組みました。

私がネットワークに参加したきっかけは、じん肺です。出稼ぎ者の職場は建設現場が多く、アスベストなどの粉じんの暴露が大きな問題です。当然天明さんはじん肺に注目していて、私に日常診療で出稼ぎ者のじん肺を意識的に発見するよう要請がありました。その結果、当時私が勤めていた東京江戸川区の病院で、約１年の間に１０人の出稼ぎ者にじん肺が見つかり、天明さんが学会などで報告されました。

ネットワークには多くの医療従事者やボランティアスタッフが参加しましたが、大体担当が決まっていて、私は千葉県船橋の石油タンクローリーの会社、同じく船橋の道路舗装の会社、東京葛飾区の土木会社を主に毎年訪問しました。

石油タンクローリーの会社では、長時間労働が印象に残っています。灯油の需要が増える冬に運転手として雇用されるのです。ある年に調査票を使って正確な労働時間を調査しました。１日に７～８件のガソリンスタンドを廻る方は、朝４時に乗務し、昼食は車上で弁当を食べて３０分休憩。その後も何件かのガソリンスタンドを廻って、会社に帰るのは早くても午後７時、遅いと９時という日もありました。長時間労働で健康障害を心配しましたが、ご本人達はあまり苦にされていないのが印象的でした。

東京葛飾区の土木会社の宿舎には毎年訪問しました。毎年出稼ぎに来られるメンバーは決まっていて、この宿舎には数人の方がおられました。夕方お伺いし、血圧測定や検尿などの検診は早々に済ませ、その後彼らの夕食にお付き合いさせて頂きました。この訪問のメンバーは毎年決まっていて、神奈川労災職業病センターの小野さんに加えて東京労働安全衛生センターの内田さんと秋田出身の高校教員の佐藤さんです。会食には当然お酒が入ります。私も飲めない方ではないのでお付き合いします。酒はもちろん秋田の銘酒「高清水」です。小野さんと佐藤さんの秋田弁が飛び交い楽しい会食でした。皆さんも、検診はとにかく私たちとの会食を楽しみにしておられたのではないのでしょうか。この会食で鮮明に覚えているのは「花寿司」です。秋田名物の漬物ですが、なすに餅米を詰め菊の花をあしらった漬物です。初めて食べましたが、なすの紫色と菊の黄色が鮮やかだったのとやや塩辛かったのを覚えています。

当時の出稼ぎは、農閑期の冬場に東京に出稼ぎに来るのですが、出稼ぎ先は決まっていて宿舎など不十分なところもありますがそれなりに用意されていました。事業主と出稼ぎ者の関係はそれなりに良好だったのではないのでしょうか。ある宿舎に訪問した時に聞いた話では、通年の出稼ぎで、派遣会社の派遣労働者として働いていて、全国に派遣されている人もおられるという話を聞きました。最近の状況はわかりませんが、雇用の調整弁としての出稼ぎ労働者の存在が気になるところです。

東京労働安全衛生センター 代表理事 平野敏夫（亀戸ひまわり診療所）

●●● 事務局からのお知らせ ●●●

【 労職研総会について 】

労職研第 20 回総会の日にちが決まりましたのでお知らせします。

日 時：6 月 18 日（日）午後

場 所：ウインクあいち 1007 会議室

記念講演：東京労働安全衛生センター代表理事 / （医）ひらの亀戸
ひまわり診療所理事長（医師） 平野 敏夫 先生

～ 会員の皆様には後日案内はがきをお送りします ～

労職研の活動

2022 年 12 月					
	9 日	名古屋労職研事務局会議		15 日	全国一斉アスベスト被害者 ホットライン
	16 日	全国一斉アスベスト被害者 ホットライン		23 日	名古屋労職研事務局会議

2023 年 1 月					
	15 日	運営委員会		27 日	名古屋労職研事務局会議
	28 日	アスベストユニオン定期大 会・相談会 in 熊本		29 日	アスベストユニオン定期大 会・相談会 in 熊本

【労職研 会費・カンパ振込先】

郵便振替 □座番号 00860-5-96923
加入者 名古屋労災職業病研究会

発行 名古屋労災職業病研究会

発行者：森 亮太

名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4 階

Tel./Fax.052-837-7420

e-mail: roushokuken@oregano.ocn.ne.jp

http://nagoya-rosai.com/